

<現 状>

自動車利用への依存
(バス分担率わずか2%)

重複する路線
(9社での競争)

運転手不足
(低賃金・2024年問題)

新たな投資が困難な
経営状況

施策の方向性

需要に見合った
効率的な運行形態
に変える

徹底した利用者目線で
利便性を向上させる

目指す姿

経営の安定化

将来にわたって
市民の移動手段を守る

利用者数の増加

公共交通の利用を
文化として広げていく

周辺部でさらなる減便・廃止のおそれ

施策の3本柱

1

バス路線の再編

2

利用環境・
業務環境の改善

3

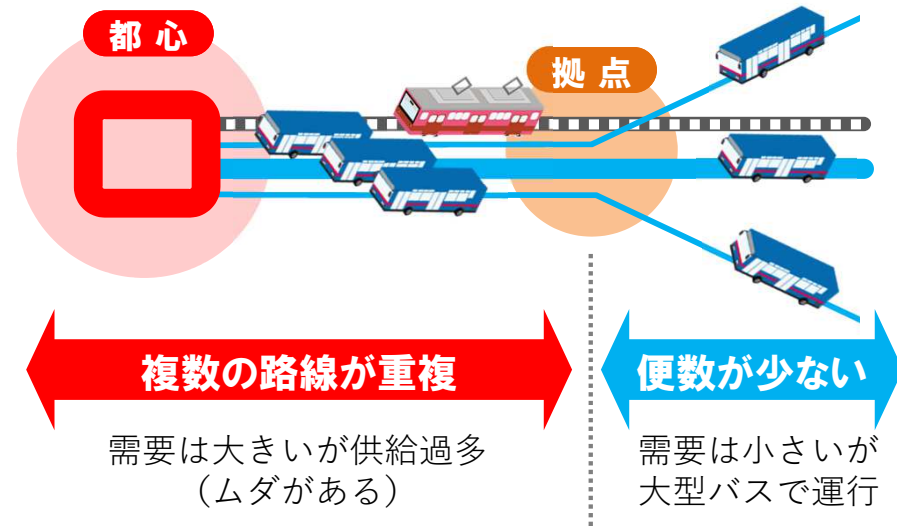
利用しやすい
運賃体系の構築

岡山市地域公共交通利便増進実施計画【第1弾】
(計画期間：R6年度～R10年度)

まとめり次第
第2弾・第3弾で実施

バス路線の維持・拡充に向けた新形態(岡山モデル)

現状



< 4つのポイント >

1. 需要に応じて幹線と支線に分割

支線：17路線

重複路線の集約等により、生み出された余力で
支線を新設・延伸・増便 (駅・商業施設・病院へ接続)

2. 支線は小型車両で運行 (普通2種免許)

運行経費の削減と運転手不足への対応

3. 支線は公設民営 (幹線は民設民営)

小型車両の調達や乗り継ぎ環境の整備等について、市が負担

4. 運行支援で支線を安定維持

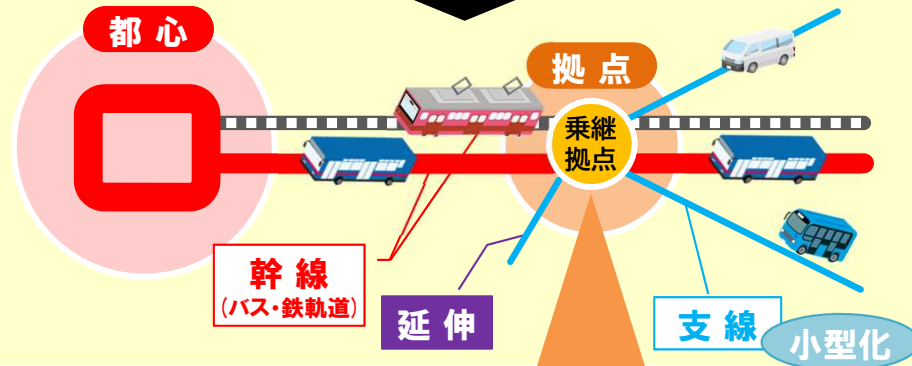
支線の収支率は30%程度と低いため、
運行経費の最大65%まで市が支援することで、支線を持続可能に

これらの4つのポイントの組み合わせが岡山モデル

市全体のバス路線の維持・拡充を図り、
市民の移動手段を守る！

再編後

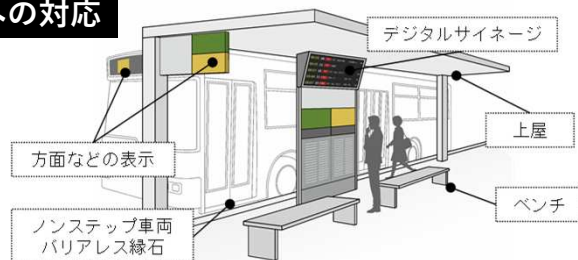
再編



課題となる「乗り換え」への対応

乗り継ぎ環境の整備

- ・待ち時間少ないダイヤ
- ・座って待てるバス停
- ・接近情報の提供
- ・直通運賃 など



再編後のバス路線ネットワーク図



事業内容・実施スケジュール(R6～R10)

利便増進実施計画【第1弾】

■ 5か年総事業費：29.4億円
 (市：13.6億円、国12.3億円、事業者3.5億円)

※市負担額の80%は
 特別交付税措置の対象

R6 R7 R8 R9 R10

事業内容	金額	実施スケジュール
バス路線の再編 13.4億円	1. 整備計画の作成	0.7億円
	2. 乗り継ぎ環境の整備	5.3億円
	3. 小型車両の導入 (支線)	1.6億円
	4. 運行支援 (支線)	5.8億円
利用環境の改善 15.7億円	5. ICカードシステム利便性向上	10.1億円
	① ICカードシステムのリニューアル 前倒し (6.1億円)	開発・製造
	② 新サービスのシステム開発 (定期WEB購入・オンラインチャージ等) (4.0億円)	設計 開発
	6. 路線の見える化・交通案内板	1.2億円
	7. 統合分析システムの開発	0.3億円
運転手の確保 0.3億円	8. 先進車両・低床車両導入支援	4.1億円
	9. 免許取得費用支援 前倒し (タクシー除く) 0.3億円	実施

運行に向けた準備
 (乗継拠点の整備、
 乗継割引のソフト開発
 小型車両の調達など)

運行開始 (準備が整った路線から)

利用しやすい運賃体系の構築
 (第2弾・第3弾で実施)

開発・製造

設計

開発

設計

整備

設計

開発

実施

実施

5① ICカードシステムのリニューアル：504,500千円【5/6支援】

幹線・支線の乗り継ぎ割引や、今後の利用しやすい運賃体系及びWEB定期購入等の新サービスの導入に向けて、その基盤となる老朽化したICカード決済システムの再構築に要する費用を支援 (路線バス・路面電車：291台分)

9 運転免許取得支援：13,500千円【1/2支援】

従業員が二種免許取得に要する費用を支援
 【路線バス】 上限30万円/人 (20人分)
 【タクシー】 上限15万円/人 (50人分)

緊急性を要する
 事業を前倒し
 (R6.2月補正)

※2月補正分は重点支援
 地方交付金を活用